おか山こんなとこ すごいぞ はっ見新聞

岡山市・開成小２年

森本　葵

おか山こんなとこすごいぞ
はっ見新聞
2008年 9月22日 新聞 開成小学校二年 森本 葵

わたしは夏休みに家ぞくで長ふね刀けんはく物かんに行ってきました。刀と言われても正じきあまりきょうみがなかったのでどんなものかわからないまま むかいました。中へ入ると刀がいっぱいてんじされていました。

びぜん刀について

平安時代のおわりごろからげんざいの長ふね地くを中心に、日本刀の生さんがさかんに行われてきました。長ふね地くでは、このころからえど時代はじめにかけて、日本全体のやく4分の1の刀工がかつやくし、その生さんりょうは日本一でした。現ざい、国ほうぞうじょうようゞかざいにしていされている刀けんのやく4わりがび前刀です。び前刀の特ちょうの一つとして、「はなやかな刀文」があげられます。たとえば、び前刀の中には、「におい出き」とよばれるように、てつなのにやわらかくふっくらしたいんしょうをうけるものがあります。

かんしょうの仕方

刀は、全体の形である「すがた」、ざいりょうのはがねからくる「地がね」、たんれんによって生み出される「刃もん」がかんしょうのポイントとなります。「すがた」からは「時代」を、「地がね」からは「さんち」を、「はだ」からは「たんほうやりゅうは」を、「刃もん」からは「りゅうはやこ人」のとくちょうをそれぞれ見出すことができます。

山島毛

かんしょうポイント
① すがたを見る。
② 地がねを見る。
③ 刃もんを見る。
④ なかごを見る。

わたしがかんしょうしてかんじたことやしらべたこと。
① 刃長 77.1cm、そり 2.3cm 元はば 3.5cm 先はば 2.2cm、みね長 2.3cm
② びかびか光っている。
③ もやもやしている。けむりみたいだった。
④ なかごじりはまるみをおびている。

長ふね刀けんはくぶつかんでは、刀けんをかんしょうするだけではなく、どんなてつだねしてとかしたんれんをくり返し行い刀けんを作るのかという、いちれんのこうていを学ぶことができるところでした。

わたしはてつをとかし、たんれんしている様子を見て刀作りの大変さを学びました。はじめは、あまりきょうみがなかったのですが、刀作りのこうていやてんじされている刀をみて、すごいなと思いました。全体の形や地がね、刃もん、なかごをみてもび前刀は一つ見じ刀けんはありません。せ小いに一つしかないけんだからこそ、たくさんのんにみりょうされるものなんだと思いました。

び前刀は時の権力者やれきしを、うごかした人ぶつにあいされたといわれています。長ふね地くの刀けんを作るぎじゅつ者がたくさんいたおか山はすごいなと思うほっけんとなりました。

さんこう・いんようしりょう
長ふね刀けんはくぶつかん
じどう・生とむりパンフレットより

(C)山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。